

海外研修レポート

American College of Sports Medicine 63rd Annual Meeting に参加して

須藤みず紀¹⁾

■はじめに

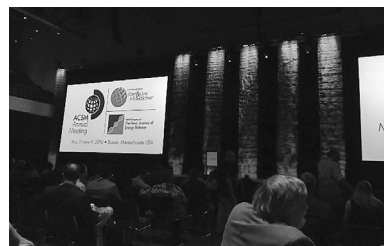
2016年5月31日～6月4日、アメリカ・ボストンで行われた第63回アメリカスポーツ医学会大会（以下、ACSM）は、初夏にはまだ早い涼しい気候のなかでの開催となった。しかし、気候とは対照的に学会会場では、最新の研究発表と熱い議論がいたるところで繰り広げられていた。本レポートでは、運動生理学のなかでも本研究所がテーマとして掲げている「運動とメンタルヘルス」に関連したシンポジウムと一般発表について、その内容と筆者が感じたことを交えて報告する。

■大会概要

ACSM は、約 5 万名以上の会員を擁しており、年に 1 度の学会大会には、毎年 5 千名以上が参加するスポーツ医科学の専門分野における世界最大級の学術団体である。筆者が参加した第63回大会は、ACSM が開催している「ACSM's 7th World Congress on Exercise is Medicine」も同時に行われており、一般発表の他に“Memorial lecture”，“Keynote lecture”，“President's lecture”など、各分野の第一線で活躍している著名な研究者のレクチャーやシンポジウムなどの講演が開催されていた。本大会は、8：00～18：00頃まで分野別に同時並行で実施されるため終日、最新の研究報告に触れることができる。総演題数は、約3800演題にもなり、スポーツ医科学を研究領域とする研究者、学者、医師や理学療法士のみならず指導者、実践者も参加し、多方面からの最新科学情報が飛び交い、非常に盛況であった。

■大会内容

本大会は、分野別に15種類のカテゴリに分類されていた。筆者は、主に、“Physical Activity / Health Promotion Intervention”，“Exercise Medicine”，“Psychology, Behavior and Neurobiology”，“Skeletal Muscle, Bone and Connective Tissue”のセッションにおけるシンポジウムや研究発表に参加した。本研究所のテーマでもある「運動とメンタルヘルス」は、運動が情動・気分や認知機能に及ぼす影響とその機序を明らかにするものである。特に運動がメンタルヘルスにもたらす効果に関する機序は、未解明な部分が極めて多い。したがって、筆者は、運動が身体へ与えるポジティブな効果について、あらゆる要因を想定したうえで、筋生理、呼吸循環、行動科学などの研究分野にターゲットを絞り発表を聴いた。各分野における発表は、科学的なエビデンスを明確に示しており、研究の質の高さをうかがえる内容が多かった。

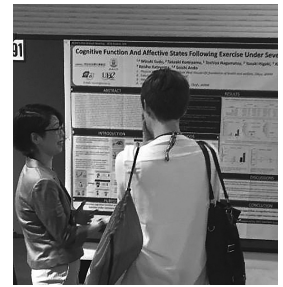


初日の Memorial Lecture 会場

1) 公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所 Physical Fitness Research Institute, Meiji Yasuda Life Foundation of Health and Welfare, Tokyo, Japan.

■研究発表を通して

筆者は本大会にて、“Psychology, Behavior and Neurobiology”分野での“Cognition, Emotion and Sport”というセッションにて“Cognitive function and affective states following exercise under severe hypoxia”に関してポスター発表を行った。近年、本学会ではメンタルヘルスに関するセッションが設置されることが多く、「運動とメンタルヘルス」研究に対する世界的興味が高まっていることがうかがえる。一過性運動の実施は、その強度によって脳への血液循環が異なり、すなわち神経細胞への酸素供給が異なることを意味する。脳における神経細胞への酸素供給の変化は、認知機能や感情へ影響を及ぼすといわれている。筆者らは、ヒトを対象として、低酸素環境曝露下での中強度運動の実施前後で、脳の酸素化レベルと認知機能、および感情の比較検討を行い、脳血流量の増加に伴った認知機能向上の可能性を示した。更に、ネガティブな感情が抑制されることも示唆した。ポスター発表では、著名な認知科学の研究者からの質疑もあり、非常に有益なコメントをいただくことができた。学術雑誌では紙面上での議論のみであるが、多くの研究者と直接会話できる学会は、個々の研究者の哲学的な面にも触れることができるため、新鮮かつ貴重である。



ポスター発表の様子

■運動とメンタルヘルスに関する研究の動向

「国民におけるメンタルヘルスに関する問題は、日本に限らずアメリカでもとても重要な課題の1つである。しかしながら、“メンタルヘルス”という主観的な評価方法が主であるテーマを研究することは容易ではない」。このアドバイスは、ポスター発表においてアメリカの研究者との議論のなかの会話である。メンタルヘルスの向上・改善を目的とした対策は、医学のみならず、スポーツ科学の分野からもさまざまなアプローチがなされている。一方で、運動の効果検証によるエビデンスのみでプログラムが作られ、効果をもたらす要因については明らかにされていないケースが多いという現実も忘れてはならない。本大会では、「運動とメンタルヘルス」に特化した発表も多く見受けられた。その多くは、精神疾患患者、認知症発症者、健常者など、ターゲットにする対象が混在しているため、テーラーメイド的な運動条件を検討した研究が少ない印象を受けた。これらの課題をクリアするには、「運動とメンタルヘルス」に関するメカニズムの解明をふまえた研究が重要であることはいうまでもない。2017年に開催される学会大会では、我々の研究が「運動によるメンタルヘルス効果」のメカニズム解明の一端を担えるような発表となることは責務であると考えている。

■おわりに

本学会大会に参加することは、日々、“国際的な研究成果の発信”を意識しながら活動を進めている研究者にとって決して高いハードルではないのかもしれない。しかし、世界で急速に進められている“健康科学に関する研究”において、研究のクオリティを保ちながら、社会に貢献するエビデンスを提供するためには相当な努力が必要であろう。「運動とメンタルヘルス」について、どのような形、目標を掲げながら世界の健康科学の分野で斬新かつ意義のあるブレイクスルーに挑んでいくのか？ 本学会に限らず国際学会は、世界が求めていること、その国際水準、そして、研究に対するモチベーションを明確にしてくれる貴重な機会である。今回の学会参加で、そのことを改めて噛み締めたと同時に、更なる成長を遂げることが次回の学会参加への最低条件であるということを実感した。

2016年度 体力医学研究所活動報告

I. 研究活動

1. 研究課題
 - (1) コアスタディー「運動とメンタルヘルス」
 - ・基礎研究：認知機能，ストレスに及ぼす運動の影響
 - ・実践研究：身体活動状況と心身の健康
健康リスク低減と運動
 - (2) 研究室別研究
 - ・運動と骨格筋機能
 - ・身体活動量と睡眠
 - (3) 外部との共同研究
 - ・運動を活用した地域健康づくり
 - ・高齢者の地域活動への参加と健康
 2. その他の活動
 - (1) 「体力研究」114号刊行（平成28年4月30日）
 - (2) ホームページ運営
-

II. 健康啓発活動

1. 講演および講義 対象：自治体，非営利法人，民間企業，大学等
 2. 学術成果に基づいた健康情報の発信 メディア掲載，ウェブサイト
-

III. 研究助成

1. 公募 第33回健康科学研究助成公募（平成28年6月1日～8月25日）
2. 贈呈式開催 第33回健康科学研究助成贈呈式開催（平成28年12月16日）
3. 成果報告書刊行 「第31回若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書」刊行
（平成28年4月30日）

Ⅳ．研究業績一覧

1 総説

著者名	題名	掲載誌名・発行年
永松俊哉	高齢者の認知機能，うつと身体活動	体育の科学 66, 427－432 (2016)
永松俊哉	青年期におけるメンタルヘルスと運動・スポーツ活動の関係	体力科学 65, 375－381 (2016)
Byun, K., Hyodo, K., Suwabe, K., Fukuie, T., Soya, H.	Possible neurophysiological mechanisms for mild-exercise-enhanced executive function: an fNIRS neuroimaging study.	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5 (5), 361－367 (2016)
Okura, T., Tsuji, T., Tsunoda, K., Kitano, N., Yoon, J.Y., Saghaazadeh, M., Soma, Y., Yoon, J., Kim, M., Jindo, T., Shen, S., Abe, T., Sato, A., Kunika, K., Fujii, K., Sugahara, H., Yano, M., Mitsuishi, Y.	Study protocol and overview of the Kasama Study: creating a comprehensive, community-based system for preventive nursing care and supporting successful aging.	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 6 (1), 49－57 (2017)

2 原著論文

著者名	題名	掲載誌名・発行年
甲斐裕子，角田憲治，永松俊哉，朽木 勤，内田 賢	日本人勤労者における座位行動とメンタルヘルスの関連	体力研究 114, 1－10 (2016)
須藤みず紀，安藤創一，永松俊哉	身体不活動者を対象としたストレッチ運動が気分と認知機能に及ぼす影響	体力研究 114, 11－19 (2016)
Sensui, H., Nagamatsu, T., Senoo, A., Miyamoto, R., Noriuchi, M., Fujimoto, T., Kikuchi, Y.	The effect of hip-hop dance training on neural response to emotional stimuli.	体力研究 114, 20－29 (2016)
Ando, S., Komiyama, T., Kokubu, M., Sudo, M., Kiyonaga, A., Tanaka, H., Higaki, Y.	Slowed response to peripheral visual stimuli during strenuous exercise.	Physiology & Behavior 161, 33－37 (2016)
Tsunoda, K., Kai, Y., Kitano, N., Uchida, K., Kuchiki, T., Nagamatsu, T.	Impact of physical activity on nonalcoholic steatohepatitis in people with nonalcoholic simple fatty liver: a prospective cohort study.	Preventive Medicine 88, 237－240 (2016)
Jindo, T., Kitano, N., Tsunoda, K., Kusuda, M., Hotta, K., Okura, T.	Daily life physical activity modulates the effects of an exercise program on lower-extremity physical function in Japanese older adults.	Journal of Geriatric Physical Therapy [Epub ahead of print]

著 者 名	題 名	掲載誌名・発行年
中原(権藤)雄一, 角田憲治, 甲斐裕子, 朽木 勤, 内田 賢, 永松俊哉	勤労者における介護の有無と精神的健康度, 身体活動量に関する検討	厚生指標 63, 1-6(2016)
Tomiga, Y., Ito A., Sudo, M., Ando, S., Maruyama, A., Nakashima, S., Kawanaka, K., Uehara, Y., Kiyonaga, A., Tanaka, H., Higaki, Y.	Effects of environmental enrichment in aged mice on anxiety-like behaviors and neuronal nitric oxide synthase expression in the brain.	Biochemical and Biophysical Research Communications 476, 635-640(2016)
Kai, Y., Nagamatsu, T., Kitabatake, Y., Sensui, H.	Effects of stretching on menopausal and depressive symptoms in middle-aged women: a randomized controlled trial.	Menopause 23(8), 827-832 (2016)
Sudo, M., Ando, S., Kano, Y.	Repeated blood flow restriction induces muscle fiber hypertrophy.	Muscle & Nerve 55(2), 274-276 (2016)
Osuka, Y., Fujita, S., Kitano, N., Kosaki, K., Seol, J.H., Sawano, Y., Shi, H.H., Fujii, Y., Maeda, S., Okura, T., Kobayashi, H., Tanaka, K.	Effects of aerobic and resistance training combined with fortified milk on muscle mass, muscle strength, and physical performance in older adults: a randomized controlled trial.	The Journal of Nutrition, Health & Aging 1-9 (2016)
Kanamori, S., Takamiya, T., Inoue, S., Kai, Y., Kawachi, I., Kondo, K.	Exercising alone versus with others and associations with subjective health status in older Japanese: the JAGES Cohort Study.	Scientific Reports 15, 39151(2016)
Suwabe, K., Hyodo, K., Byun, K., Ochi, G., Yassa, M.A., Soya, H.	Acute moderate exercise improves mnemonic discrimination in young adults.	Hippocampus 27(2), 229-234(2017)
藤井啓介, 北濃成樹, 神藤隆志, 佐藤文音, 國香想子, 藤井悠也, 大藏倫博	独居高齢者における地域活動への参加と抑うつとの関連性	理学療法科学 32(1), 105-110(2017)
佐藤文音, 神藤隆志, 藤井啓介, 辻 大士, 北濃成樹, 堀田和司, 大藏倫博	高齢ボランティアが運営する運動サークルへの参加が地域在住女性高齢者の身体機能に与える影響—自治体主催の専門家による運動教室修了後の検討—	日本プライマリ・ケア連合 学会誌 40(1), 9-15 (2017)

3 短報

著 者 名	題 名	掲載誌名・発行年
永松俊哉, 朽木 勤, 角田憲治, 小野寺由美子, 山下陽子, 須藤みず紀, 加藤由華	女性勤労者のストレス反応, 自律神経機能, および気分に至る軽運動の効果	体力研究 114, 30-34(2016)

著者名	題名	掲載誌名・発行年
角田憲治, 甲斐裕子, 北濃成樹, 内田 賢, 朽木 勤, 永松俊哉	活動的な集団における余暇活動と主観的健康感の 関連 —集中型と分散型の実践で関連に違いがあるか?—	体力研究 114, 35-41 (2016)

4 解説, 資料, 報告書, 出版物, その他

著者名	題名	掲載誌名・発行年
永松俊哉	からだのしくみの理解	社会福祉法人 全国社会福 祉協議会 発達と老化の理解・こころ とからだのしくみ 3月30日号, 80-93 (2016)
中原(権藤)雄一, 角田憲治, 藤本敏彦, 永松俊哉	大学生における運動部活動参加の有無による精神 的健康度の相違	体力研究 114, 42-46 (2016)
永松俊哉	高齢者の心健康 —運動を活用した対策—	一般社団法人 中高年齢者 雇用福祉協会 ないすらいふ情報 5月1日号, 184-188 (2016)
永松俊哉	運動とメンタルヘルス	株式会社法研 健康管理 63, 16-25 (2016)
永松俊哉	疲労とリカバリーのメカニズム	日本スポーツ企画出版 スマッシュ 10月号, 84-85 (2016)
永松俊哉	高齢ドライバーの運転心得	朝日新聞出版 週刊朝日 12月2日号, 28-29 (2016)

5 学会・研究会発表

著者名	題名	学会・研究会・ 開催地・月	掲載誌名・発行年
甲斐裕子, 角田憲治, 金森 悟, 鎌田真光, 荒井弘和	住民による運動の場づくりは地域 全体の高齢者の身体活動を増加さ せるか? —追跡5年目の評価—	第19回日本運動疫 学会学術総会 東京 6月	第19回日本運動疫学 学会学術総会プログラ ム 25 (2016)
Komiyama, T., Katayama, K., Sudo, M., Ishida, K., Higaki, Y., Ando, S.	Reduction in oxygen delivery under severe hypoxia affects cognitive function during moderate exercise.	63rd American College of Sports Medicine (ACSM) Boston Jun.	ACSM's 63rd Annual Meeting 48 (5), S323 (2016)

著 者 名	題 名	学会・研究会・ 開催地・月	掲載誌名・発行年
Sudo, M., Komiya, T., Nagamatsu, T., Higaki, Y., Ishida, K., Katayama, K., Ando, S.	Cognitive function and affective states following exercise under severe hypoxia.	63rd American College of Sports Medicine (ACSM) Boston Jun.	ACSM's 63rd Annual Meeting 48(5), S324(2016)
Tomiga, Y., Ito A., Maruyama, A., Sudo, M., Ando, S., Kawanaka, K., Tanaka, H., Higaki, Y.	Association between anxiety-like behaviors and neuronal nitric oxide synthase in old mice under enriched environment.	63rd American College of Sports Medicine (ACSM) Boston Jun.	ACSM's 63rd Annual Meeting 48(5), S661(2016)
永松俊哉	テニスにおける疲労とリカバリー のメカニズム	第42回日本テニス ・スポーツ研究会 東京 7月	第42回テニス・メ ディカルセミナープ ログラム 5(2016)
須藤みず紀, 安藤創一, 富賀裕貴, 永松俊哉, 田中宏暁, 桧垣靖樹	2型糖尿病ラットにおけるダウン ヒルトレーニングが海馬の BDNF 産生に及ぼす影響	第24回運動生理学 学会大会 熊本 7月	Advances in Exercise and Sports Physiology (2016)
北濃成樹, 角田憲治, 甲斐裕子, 内田 賢, 朽木 勤, 小野寺由美子, 永松俊哉	首都圏勤労者における身体活動の 種類と心理的ストレスとの関連性	第57回日本人間ド ック学会学術大会 長野 7月	人間ドック 31(2), 186(2016)
須藤みず紀, 安藤創一, 富賀裕貴, 永松俊哉	身体不活動者への一過性ストレ ッチ運動はメンタルヘルスと認知 機能を向上させる	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 418 (2016)
富賀裕貴, 吉村咲紀, 伊藤 愛, 須藤みず紀, 安藤創一, 江島弘晃, 田中宏暁, 桧垣靖樹	高脂肪食摂取及び運動介入が骨格 筋 nNOS 発現と DNA メチル化に 及ぼす影響	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 440 (2016)
佐藤文音, 北濃成樹, 國香想子, 藤井啓介, 大蔵倫博	長期的なスクエアステップ・エク ササイズの実践が女性高齢者の身 体機能に与える影響	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 488 (2016)
越智元太, 兵頭和樹, 諏訪部和也, 征矢英昭	低酸素運動による認知疲労とその 脳機構	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 496 (2016)
藤井悠也, 宮部研人, 北濃成樹, 薛 載勲, 藤井啓介, 大蔵倫博	高齢者における睡眠時間と抑うつ 度との関連 — 一個人が理想とする睡眠時間に着 目した検討 —	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 517(2016)
永松俊哉, 朽木 勤, 角田憲治, 小野寺由美子, 山下陽子, 須藤みず紀, 加藤由華	女性勤労者の認知パフォーマンス, 自律神経機能, および気分 に 及 ぼ す 軽運動の影響	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 520(2016)

著 者 名	題 名	学会・研究会・ 開催地・月	掲載誌名・発行年
薛 載勲, 藤井悠也, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 大藏倫博	身体活動の実践時間帯が高齢者の 睡眠に及ぼす影響	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 521(2016)
中原雄一, 角田憲治, 藤本敏彦, 永松俊哉	大学生における運動部活動の参加 は学生生活の不安を軽減させる か? —1年間の縦断研究からみた検討—	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 522(2016)
北濃成樹, 角田憲治, 甲斐裕子, 内田 賢, 朽木 勤, 永松俊哉	余暇活動の実践頻度の違いが勤労 者の1年後の主観的睡眠感に及ぼ す影響	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 532(2016)
甲斐裕子, 角田憲治, 北濃成樹, 内田 賢, 朽木 勤, 永松俊哉	座位行動は勤労者の主観的幸福感 に影響するか?	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 533(2016)
角田憲治, 甲斐裕子, 北濃成樹, 相馬優樹, 内田 賢, 永松俊哉	首都圏在住高齢者の歩行移動およ び自転車移動と地理的環境との関 連	第71回日本体力医 学会 岩手 9月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 5(6), 534(2016)
兵頭和樹, 諏訪部和也, 征矢英昭, 永松俊哉	様式の異なる低強度運動が健常高 齢者の気分・実行機能に与える影 響 —自転車運動とスローエアロビッ クの比較—	第9回脳・神経・ 内分泌系から運動 の意義を考える会 岩手 9月	第9回脳・神経・内 分泌系から運動の意 義を考える会プログ ラム・予稿集 5(2016)
永松俊哉	メンタルヘルス対策としての運動 の効用	第24回日本産業ス トレス学会 東京 11月	産業ストレス研究 24(1), 68(2016)
Jindo, T., Sriramatr, S., Maphong, R., Okura, T.	The effects of square-stepping exer- cise on the physical and cognitive function in older Thai adults.	The 6th ISPAH International Congress on Physical Activity and Public Health in Bangkok Bangkok Nov.	ISPAH Congress Program Book 75(2016)
甲斐裕子	身体活動・座位行動の疫学 「メンタルヘルスの観点から」	九州大学リサーチ コア講演会	
北濃成樹, 角田憲治, 甲斐裕子, 内田 賢, 朽木 勤, 小野寺由美子, 薬師神道子, 永松俊哉	睡眠と身体活動の組み合わせがメ タボリックシンドローム発症に及 ぼす影響: 疫学的縦断研究	日本総合健診医学 会第45回大会 千葉 1月	総合健診 44(1), 220(2017)
金森 悟, 甲斐裕子, 楠本真理	事業場の産業看護職の有無と関連 する企業の要因	第5回日本公衆衛 生看護学会学術集 会 宮城 1月	第5回日本公衆衛生 看護学会学術集会講 演集 171(2017)

著 者 名	題 名	学会・研究会・ 開催地・月	掲載誌名・発行年
神藤隆志, 甲斐裕子, 北濃成樹, 永松俊哉, 植木貴頼, 青山健太, 越智英輔, 小山内弘和, 鈴川一宏	青年期における特性的自己効力感 と関連する運動・スポーツ活動の 特徴	日本発育発達学会 第15回大会 岐阜 3月	日本発育発達学会第 15回大会プログラ ム・抄録集 81(2017)
Sudo, M., Ando, S., Tomiga, Y., Nagamatsu, T., Kano, Y., Higaki, Y.	The effects of downhill running train- ing on skeletal muscle and hippocam- pal BDNF expression in type II diabetic rat.	第94回日本生理学 会大会 静岡 3月	The Journal of Physiological Sciences 67(1), S100(2017)
Hyodo, K., Suwabe, K., Jindo, K., Soya, H., Nagamatsu, T.	The effect of slow aerobic dance on executive function in older adults.	ARIHHP ヒューマ ン・ハイ・パフォー マンスフォーラ ム2017 茨城 3月	ARIHHP ヒューマ ン・ハイ・パフォー マンスフォーラムプ ログラム 7(2017)

6 その他の実績

氏 名	課 題	期 間
須藤みず紀(研究代表)	運動はなぜメンタルヘルスを向上させるのか？(科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)挑戦的萌芽研究)	平成26～28年度
須藤みず紀(研究代表)	筋収縮は脳の健康に貢献するか？筋から脳への情報伝達機構の解明と運動処方への応用(科学研究費助成事業(科学研究費補助金)若手研究(A))	平成28～31年度
兵頭和樹(研究代表)	高齢期における有酸素能力と実行機能の関連性解明に向けた脳機能イメージング研究(科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究活動スタート支援)	平成28～29年度
須藤みず紀(分担研究)	エピジェネティック修飾を介する骨格筋糖代謝の分子適応機構の解明(科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤研究B(一般))	平成27～28年度
須藤みず紀(分担研究)	骨格筋細胞における核とミトコンドリアの共遊走機構の解明(科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)挑戦的萌芽研究)	平成27～28年度
須藤みず紀(分担研究)	低酸素環境下での運動中の認知機能：閾値の検討と神経活動の評価法の開発(科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)挑戦的萌芽研究)	平成27～28年度

V. 健康啓発活動業績一覧

1 講演および講義

テ ー マ	主 催	対 象 者	月
学び、考え、行動する 自分を高める3つのステップ	第3回屋久島高等学校設立 記念日講演会	屋久島高校生 ・町民	4月
ポジティブ脳に切り替えるテクニック	明治安田生命 健康保険組 合	職員	6月
平成28年度鶴見区介護予防普及啓発講演会 運動を活用した、仲間との健康づくり	横浜市鶴見福祉保健セン ター	一般住民	6月
特定保健指導実践者育成研修 行動変容に関する理論	中央労働災害防止協会	保健師・管理 栄養士、他	7月
第7回 HHP フォーラム 健康の歴史と運動 —「健康」概念の変遷と「運動」の役割—	第7回 HHP フォーラム	筑波大学大学 院生・教員	8月
生活習慣病予防セミナー 脱・三日坊主の行動変容のコツ	横浜市戸塚福祉保健セン ター	一般住民	9月
認知症予防講演会 地域での活動や運動による認知症予防	横浜市瀬谷福祉保健セン ター	一般住民	9月
産業保健指導・産業栄養指導専門研修 行動科学理論を活かした健康支援	中央労働災害防止協会	保健師・管理 栄養士、他	11月
ポジティブ脳に切り替えるテクニック	総務省統計局	職員	1月
認知機能低下予防コース 運動と脳フィットネス	公益財団法人 健康・体力づ くり事業財団	健康運動指導 士・健康運動 実践指導士、 他	1月
座っていることのデメリット	明治安田厚生事業団	MYヘルス会 会員	2月
筑波大学人間総合科学研究科体育科学専攻キ ャリア支援フォーラム学位取得者懇親会 学位取得までの道のりについての指導助言	筑波大学	大学院生	3月

お知らせ

第33回(2016年度)若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

a. 指定課題 (10件)

(五十音順・敬称略)

氏 名	所 属	研究テーマ
上村 一貴	富山県立大学 工学部	アクティブ・ラーニングを用いた教育介入による運動の促進が高齢者のメンタルヘルスに及ぼす影響 —ランダム化比較試験—
大久保善郎	Neuroscience Research Australia Falls, Balance and Injuries Prevention Centre	反応的・随意的ステップ訓練が高齢者のメンタルヘルスに及ぼす影響 —要因ランダム化比較試験—
鈴木 宏哉	順天堂大学 スポーツ健康科学部	学校における公的運動環境はまちづくりの過程で生じた児童生徒のメンタルヘルス格差を是正するか?
清野 諭	東京都健康長寿医療センター 研究所 社会参加と地域保健研究チーム	運動を中心としたフレイル予防プログラムが高齢者の精神的健康に及ぼす長期的効果 —傾向スコアマッチング法による前向き研究—
妹尾 奈波	静岡県立大学 薬食生命科学総合学府	骨格筋 FOXO1制御をターゲットとした、運動不足によるうつ症状への影響解明とうつ症状を予防・改善する化合物の探索
東本 翼	産業技術総合研究所 人間情報研究部門	心拍と動作リズムとの同期現象が生じた運動中の脳循環特性の解明 —脳循環の維持・改善に効果的な運動様式の探索—
富賀 裕貴	福岡大学大学院 スポーツ健康科学研究科	肥満が引き起こすメンタルヘルスの悪化は、運動により改善できるか? —海馬の神経型一酸化窒素合成酵素 (nNOS) に着目して—
藤井 彩	関西医科大学大学院 医学研究科	長期連続身体活動・運動・睡眠状況からメンタル・気分の変化を評価する研究
藤田 幸	大阪大学大学院 医学系研究科	運動トレーニングが中枢神経損傷後における高次脳機能障害を改善するメカニズムの解明
斐 成琉	国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部	不活動の高齢者における健康活動促進プログラムの実践が抑うつ傾向と脳白質神経線維の結合性に及ぼす影響

(以上10件、一律100万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載)

b. 一般課題 (9件)

氏 名	所 属	研究テーマ
井上恒志郎	北海道医療大学 大学教育開発センター	一過性中強度運動による海馬 CA1を介した記憶固定化の促進に関わる神経機構の解明 —逆行性トレーサーを用いた検討—
川田 将之	鹿児島大学 医学部	ウェアラブルセンサーを用いた臨床応用可能な歩行トレーニングシステムの開発
北嶋 康雄	長崎大学 原爆後障害医療研究所	骨格筋量を決定するタンパク分解系に着目した筋再生メカニズムの解明
坂光 徹彦	広島大学病院 スポーツ医科学センター	障害者スポーツ選手の活動現場における体温変化の実態調査 —熱中症予防を目指して—
夏堀 晃世	東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野	日中の運動によりもたらされる「良質な睡眠」の脳内機序の解明 —脳内アストロサイトの細胞内エネルギー状態に着目して—
西村 一樹	広島工業大学 環境学部	周期的低圧低酸素環境を用いた新しい健康増進システムの開発
原村 未来	鹿屋体育大学大学院 体育学研究科	子どもにおける自体重負荷運動時の呼吸代謝応答および筋活動水準の明確化 —子どものための自体重負荷運動プログラムの策定に向けて—
茂木 康嘉	尚美学園大学 総合政策学部	発育期における筋と腱形状の筋内・腱内部位差の検討
山梨 啓友	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	地域在住高齢者の国際比較研究 —動脈硬化に着目したサルコペニアの病態解明—

※ 1名辞退

(以上9件、一律50万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載)

公益財団法人 明治安田厚生事業団

第34回 若手研究者のための健康科学研究助成

選考委員推薦による「選考委員奨励枠」を新設しました！

研究テーマ

- a. 指定課題：運動とメンタルヘルス
 - b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究
- ※いずれか1件のみ応募可

助成の金額

- 総額 1,500万円
- a. 指定課題：1件につき100万円
 - b. 一般課題：1件につき50万円

選考委員奨励枠

受贈課題以外から、選考委員推薦による特別枠
1件につき30万円（若干数）

応募資格

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方（医学・歯学の学士などを含む）
- ・40歳未満かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・第33回（前年度）受贈者は除外

応募締切

2017年8月24日（木）必着

主 催：公益財団法人 明治安田厚生事業団

後 援：日本体力医学会

明治安田生命保険相互会社

選 考 委 員：委員長 福 永 哲 夫（鹿屋体育大学特任教授）

（五十音順・敬称略） 委 員 井 澤 鉄 也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

委 員 小 熊 祐 子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授）

委 員 定 本 朋 子（日本女子体育大学教授）

委 員 新 開 省 二（東京都健康長寿医療センター研究所副所長）

委 員 永 松 俊 哉（公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所所長）

※応募方法：申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください。

作成した「申請者情報ファイル（エクセル形式）」と「研究計画ファイル（ワード形式）」を事務局宛にメールでお送りください。

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません。

※申請書ダウンロード：URL: <http://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/index.html>

※申請書送付：E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

※お問合せ：公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所 研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

Bulletin of the Physical Fitness Research Institute
published by
Meiji Yasuda Life Foundation of Health and Welfare,
150, Tobuki, Hachioji, Tokyo

平成29年 4 月30日

発行者	中熊一仁
編集者	永松俊哉
発行所	公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所 東京都八王子市戸吹町150 〒192-0001 電話 (042) 691-1163番 (代表)
編集協力	東京六法出版株式会社
印刷製本	亜細亜印刷株式会社
